

## 第2回伝統文化大会課題一覧

### ◆開催趣旨

伝統文化尊重の教育課程に添う

お正月にちなむものとして全国年賀はがきコンクールと学生書き初め展覧会から成る規模の大きな大会を開催するものです。新しい学習指導要領で伝統文化の尊重が強く求められ、また国語科では「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が置かれ、書写はその中に位置づけられました。

新事項は、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことという国語の学びの3領域を支える基礎となるもので、書写はその大事な部分を構成しています。また、同事項では日本の伝統的な習俗に根ざし、古典、古文に親しむ学習が求められています。書写も伝統文化をより強く意識した学びとなくなるとはいけません。こうした学びを後押しするコンクールとして開催するのが伝統文化大会です。

また総合大会と同じく、一括実施することで毛筆・硬筆のバランスある書写書道の学びを推進し、また子どもらが年中コンクールに追われる状態を避けることも目的としています。

### ◆課題設定の考え方

#### ◆年賀はがきコンクール

誰に出すかを明確に

かつて日本では、正月にお年始の風習が盛んでした。しかし、遠方の相手などには手紙で年始を代用することが慣例となったのが年賀状（はがき）です。こうした由来のつとより、年賀はがきの内容は、新年を寿（ことほ）ぎ、旧年中の交流を謝し、新年の一層の交流を願うものとなります。また、今大会の課題設定では、誰に出すかの相手意識を明確にすることに留意しました。小学生以下はお友だち、中学生以上は目上に出す設定を基本にしています。

#### ◆書き初め展覧会

新年の決意を手書きする

書き初めは、1月2日の仕事始めにちなんだ宮中行事だったといわれています。おめでたい言葉などを選んで書くのがそのスタイルでした。江戸時代に寺子屋教育が盛んになると、字の上達を願う儀式としての側面が強まりました。こうした歴史を踏まえ、当コンクールが目指す現代の書初めの意義は、年頭に新しい年への決意、目標を手書きするところを念頭に置きたいと思いません。決意、目標はそれぞれであっていいし、あからさまに書かなくてもいいのですが、自分にとって前向きで、世の中のためにもなる目標を持つことが大事との気持ちを込めた課題設定としました。